What's happening?
私の徳島生活

大学院口腔科学教育部
TRIANNA WAHYU UTAMI トリアナ ワヒュー ウタミ [インドネシア]

私にとって、文部科学省の奨学生に選ばれたことは、とても大きな好機でした。日本のような先進国で勉強を続けることは、約18年前に交換留学生の経験をしてからずっと私の夢でした。

徳島大学で博士課程に入学することは、先輩からの提案でした。なぜなら、徳島大学と私の母校は協定を結んでいるからです。しかし、それだけが理由ではありません。私が高校１年生だった時、日本での生活を1年間経験しました。私は日本の文化や、言語、人々のことがとても気に入りました。だから私は、徳島での博士課程での勉強を選んだのです。

率直に言って、異国に住みながら勉強することは本当に大変でした。発展途上国から来た私のような留学生にとって、日本での現代技術の研究や知識は全てが新鮮でした。私は急に目が覚めた思いでした。世界はなんて広いんだろうと。何も知らなかったころから生まれ変わったようでした。幸運な事に私は野間教授や、全ての研究室の方々、そして特に三好講師の多大な協力を受けることができました。研究室の皆さんの協力で、研究について全てのことを教えていただきました。彼らからの多大な協力があり、私は次第にここでの新しい生活になじむことができたのです。

今、私は自分の研究を楽しんでいます。今までに沢山の成果を得ることができたと思います。今、私は生命現象の分子構造原理を理解しつつあります。私は分子医化学分野で、様々な基礎的な技術研究をすることができました。世界中の有名な研究グループが発表した沢山の論文を集め、読む機会がありました。それらの事が私の知力を幅広く、磨いてくれたと思います。

徳島での日常生活は、とても気に入っています。日本人の友人は、とても親切でよく助けてくれます。8月には阿波踊り、10月には御神輿祭り、12月にはお餅つきなどの代表的な日本的な文化イベントを楽しむ機会がありました。私の日本語は、地域の皆さんと付き合うことで上達しています。本当によい経験ができていると思っています。私は以前よりも違う価値観や文化をもつ他の人の気持ちを理解する事ができるようになりました。

日本人はどの職種を持つ人も、まじめで規律を守り、とても勤勉だと思います。そのことに本当に感動します。一度私は徳島に来たインドネシア人看護師のインタビューにＮＨＫへ同行する機会がありました。わたしにとって、とても貴重な時間でした。その時に、どのようにアナウンサーがテレビ番組で司会をするかを学びました。私は彼らの仕事は、私の研究と同じところがあると思いました。完璧なテレビ番組を見せるには、注意深く考え、何度も撮影を繰り返す必要があります。たとえ、何百という労力や時間を費やしても、放送されるのは30秒だけだったりします。

私も同じように、研究論文でよい成果を挙げるためには、何ヶ月も努力しなければなりません。だから、私は徳島大学という素晴らしい環境で、やる気をもってチャレンジし、楽しみ続けることが必要だと思います。

京都への家族旅行

インドネシアからの留学生と奈良旅行

分子医科学分野の皆さんと

お餅つき大会にて（中央が筆者）

NIHでの研修留学を終えて

大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 食品機能学分野
河合 慶親 かわい よしちか

2008年4月より2009年12月までの約1年8カ月間、米国国立衛生研究所（National Institutes of Health, NIH）に所属し研究する機会を得ました。NIHは1887年に設立された世界最大級の医学研究拠点であり、メリーランド州ベセスダを本部として現在では20の研究所と7つのセンターが存在します。私はベセスダにある米国心肺血液研究所（National Heart, Lung, and Blood Institute, NHLBI）Translational Medicine BranchのToren Finkel博士のラボにSpecial Volunteerとして参加しました。

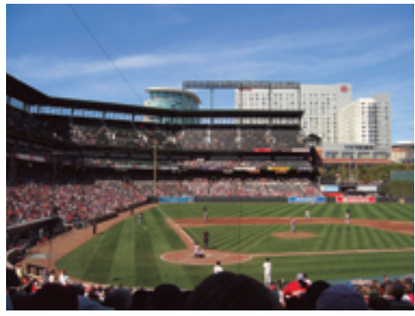
ラボでは、個体レベルの老化（Aging）と細胞老化（Senescence）を繋ぐシグナルに焦点を当て、最近は特にミトコンドリア機能に着目した分子生物学的解析に取り組んでおり、私もミトコンドリア品質管理に関する興味深いテーマを与えられました。これまで化学分析系を中心としてきた私にとって、この留学は分子生物学的手法を一から学ぶ絶好の機会となっただけでなく、帰国後もライフワークに出来るような新たな研究テーマと出会えた大変意義のあるものでした。また、常にBig journalにチャレンジする非常にアクティビティの高いラボのノウハウを垣間見ることができ、「いつかは自分も」という意欲をかき立てられました。NHLBIにはCore Facilityという専門部署が10か所あり、プロテオミクスやフローサイトメトリー、各種顕微鏡など様々な実験を依頼したり手法を学んだりすることができ、このような充実した共同利用施設の重要性を肌で感じました。

NIHには常に数百人の日本人研究者が主にポスドクとして在籍しており、様々な研究分野の日本人研究者と知り合い交流を持つこともできました（徳島大学の方とも数名出会いました）。日本人同士で月例セミナーを開催したり、週末には家族ぐるみでテニスを楽しんだり、時には日本での研究や仕事について真剣に語り合ったりできたことは、日本人の多いNIHならではと感じました。

ベセスダは首都ワシントンDCからメトロ（地下鉄）で移動できる近さで気軽にDC観光を楽しむことができ（多くの博物館が無料で入れることも魅力です）、車で5時間ほど走ればニューヨークまで足を延ばすこともできます。DCにはナショナルズ、近郊のボルチモアにはオリオールズの本拠地があり、野球好きの私としては至福の時間を過ごすこともできました。このように研究面・生活面ともに充実した日々を送ることが出来ましたこと、留学のチャンスを頂いた食品機能学分野・寺尾純二教授ならびに不在の間ご迷惑を掛けました研究室の皆様に心より御礼申し上げます。

国会議事堂前にて

滞在中にオバマ大統領が就任しました


ボルチモア・オリオールズの本拠地Camden Yards

ボスの家でのパーティー風景

ラボのあるビルディング10から眺めた風景